

# 鈴木かずひろ 県議会NEWS

春号  
2020年



## 資源の循環利用を 行い、災害に強い 森林づくりを!

県内人工林の伐期を過ぎた林木の割合は、スギとヒノキを合わせて8割を超えており、伐期を過ぎた人工林を放置したままでは、気象害や病虫害を受ける危険性が高まります。災害防止の観点からも、森林資源の循環利用に対する県の取り組みを質問しました。

循環利用を進めるためには、まずは木材の需要を拡大し、併せて安定的に供給していくことが不可欠である。今後は、生産から消費までをつなぐサプライチェーンの構築を促すとともに、倒木など質の劣る木材の活用に向けた支援に取り組みながら、県産木材の更なる需要と供給の拡大を図り、循環利用を進めていく。



## 県教委における 障がい者法定 雇用率の達成を!

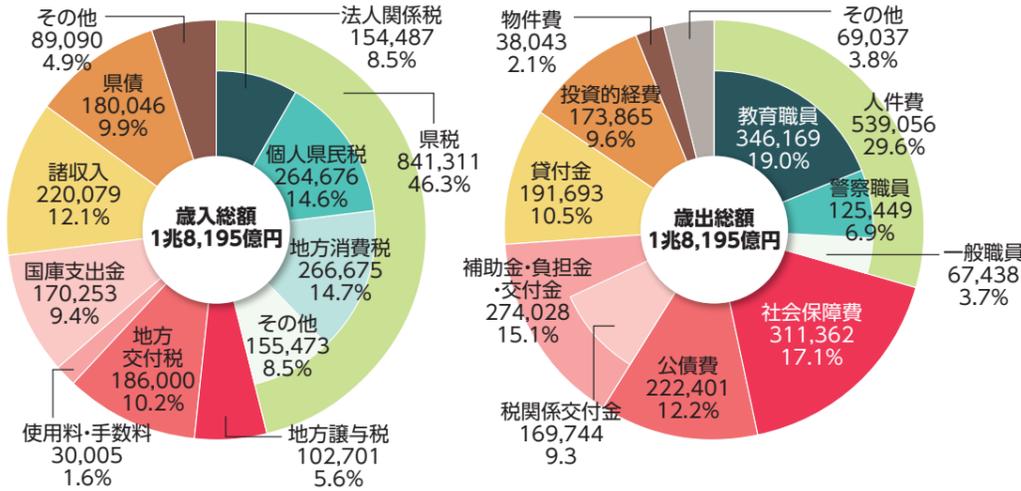
令和元年の県教育委員会における実雇用率(1.41%)が法定雇用率(2.4%)に対して大きく乖離する結果であったことを受け、法定雇用率の達成に向けての取り組みと、雇用する職域について質問しました。また、教員の事務負担軽減につながる職域の拡大を要望しました。

平成31年からの2年間で、事務職員などで約90人、県立学校の学校技能員・調理員などで約270人を採用する計画である。また、今年度から採用選考の職種に司書、文化財技術、学芸員を加えるとともに、来年度は非常勤職員について、学校の環境整備をチームで行う仕組みを導入する。さらに、来年度から、障害者雇用推進班を設置し、採用計画の進捗管理、サポート体制の充実に取り組む。



## 一般会計当初予算の状況(グラフ) (単位:百万円)

令和2年度の当初予算は、「くらし満足度日本一」の実現に向けた事業に、重点的に配分されています。予算規模は、1兆8,194億8,500万円(前年度比3.3%増)となりました。



### 【今年度の主な事業】

一部損壊の住宅への支援/私立高校等への就学に係る教育負担の軽減/ひとり親家庭等医療費助成事業/児童相談所の機能強化/介護人材確保対策事業/元気ちば!健康チャレンジ・ポイント事業/東京2020大会の文化プログラムを契機とした文化力向上事業/特産果樹産地再生事業など

## 災害対策 コーディネーターの 育成と活用を!

災害時には、共助の要となる防災人材の存在がますます重要になってくることを踏まえ、災害対策コーディネーターに対する県の取り組みについて質問しました。

県では、市町村が行う養成講座に対して、講師派遣や経費を支援するとともに、実践的な防災知識の習得をめざすスキルアップ講座を実施している。コーディネーターが少ない市町村に対しては、人材養成の必要性や活用事例を紹介し、養成を働きかけていくとともに、災害時における連携した取り組みを促していく。



## ICTを活用した 災害情報の 把握と発信を!

大規模災害時には、正確な情報の把握が重要であるため、ICTの活用を積極的に進めるべきです。そのためにも、気象や災害情報を共有できる「ちば減災プロジェクト」について、周知と利用者の拡大を訴えました。

防災士会などの防災関係のNPO法人や防災アドバイザー等にも投稿を呼びかけるとともに、市町村に対しても、本プロジェクトへのリンクの設置や、広報誌等への掲載による地域住民への周知を働きかけていく。

さらに、被災者への生活再建支援に対する情報提供に活用された「AIチャットボット」については、他の災害に対する備えを要望し、災害情報を発信した「千葉県防災ツイッター」については、LINEやFacebookなどの新たなソーシャルメディアの活用を提案しました。

### ちば減災プロジェクトとは

この取り組みは、千葉県にお住まいの皆さん、県職員、ウェザーニューースの利用者によって県内で観測された情報や、気象災害時の被害情報などを共有し、県民自らが自分に必要な情報を得ることで、自助・共助活動を支援。気象災害による被害を減らす「減災」を目指しています。

- 知る**
  - レポートで今の千葉を知る: 被害発生・場所の特定、日常の天気や体感、季節情報がわかる
  - 地元の過去の災害を知る: 県民自らの災害事例がわかる
  - メールで今後を知る: 過去の災害発生と同じ状況になったらメールで受ける
- 伝える**
  - レポートで今の千葉を伝える: 県民、県職員自ら情報発信
- 参加**
- 利用**
- 公助**
  - 県民と県政のスムーズな連携: 行政の活動状況をリアルタイムに把握

県政についての  
皆様の声を  
お聴かせください。



## 千葉県議会議員 鈴木 かずひろ

千葉県議会 公明党控室 〒260-0855 千葉県千葉市中央区市場町1-5  
 TEL 043-223-2540 FAX 043-227-9162  
 kazuhiko\_suzuki2019@yahoo.co.jp  
<https://suzuki-kazuhiro.amebaownd.com/>  
<https://www.facebook.com/kazuhiro.suzuki.2019>  
[https://twitter.com/kaz\\_suzuki2019](https://twitter.com/kaz_suzuki2019)

## 中小企業に対して BCP(事業継続計画) の推進を!

大規模災害や感染症などの緊急事態に遭遇した際、事業の継続や早期復旧を図るための計画であるBCPの重要性が高まっていることから、県内中小企業のBCP策定支援に対する県の取り組みと、今後について質問しました。

県産業振興センターにおいて、セミナーの開催や専門家の派遣を実施しているが、中小企業のBCP策定が進んでいない。昨年7月から、国の制度として、簡易版BCPである「事業継続力強化計画」の認定制度が始まったため、本制度の普及・啓発を積極的に図ることを通じて、BCP策定に向けた支援を行う。



## 八幡水路の整備と 老朽化対策を!

八幡水路の護岸の老朽化が影響していると考えられる要因で、昨年、水路脇市道の陥没が発生。また、水路内には、堆砂がたまって葦が生い茂っている箇所もあるため、八幡水路の管理状況と今後の整備予定を質問しました。

老朽化している護岸については、改修方法について、隣接する道路の管理者である市原市と協議を行っている。また、水路内の整備については、除草など日常管理を行うとともに、堆積土砂の浚渫や老朽化した護岸の補修を順次実施し、適正な維持管理に努める。



## 県管理河川に 水位計の増設を!

市原市内にある県の管理河川(村田川、養老川、前川、椎津川)における水位計の設置状況を確認するとともに、水位計の増設を提案しました。

現在、村田川に2か所、養老川に4か所、椎津川に1か所の水位計を設置している。まずは、水位周知河川において、避難判断等の基準となる水位観測地点を対象に、危機管理型水位計を次の出水期までに設置する(村田川2か所、養老川2か所、椎津川1か所)。その他の箇所については、今後、設置方針を策定したうえで検討を行う。



## JR内房線・第二 菊間道踏切の 早期拡幅を!

JR八幡宿駅の北側にある「第二菊間道踏切」は、踏切の幅が狭いうえ、踏切内には歩道がない危険性を訴え、踏切の早期拡幅を要望しました。

平成29年度から車道拡幅と歩道設置を行う踏切拡幅に取り組んでいるが、JRとの協議により、踏切拡幅の設計と工事はJRに委託しており、踏切に隣接する水路を暗渠化する設計が完了したところである。引き続き、JRへ積極的に働きかけ、早期に踏切の拡幅が完了できるよう、事業の推進に努めていく。



## 県道13号市原茂原 線の早期整備と 安全対策を!

県道13号市原茂原線の磯ヶ谷から川在までの区間は、歩道が整備されていない箇所が多く、自転車や歩行者が通行するのは非常に危険であることを指摘し、道路整備と安全対策について要望しました。

磯ヶ谷から松崎までの区間では道路整備を進めており、国道297号側の2.2km区間については交通分散を図るバイパス整備を、茂原市側の0.7km区間については、現道の拡幅整備を行っているところである。これまでの用地取得率は9割を超えており、まとまった用地が確保できたところから、順次、道路改良工事を進めていく。



## ガントリークレーンの 早期更新を!

千葉港コンテナターミナルに設置されているガントリークレーン1号機が、老朽化に伴う故障や修繕により利用できないことが発生。利用者からも早期の更新要望が出されていたため、更新工事の進捗状況を確認しました。

平成31年3月に更新工事を発注し、現在はクレーン本体等の製作を進めている。今後は、現地での据え付けに向け、コンテナターミナル利用者との調整を行い、本年秋頃の完成をめざし、引き続き取り組む。



## 菊間県営住宅の 空き家対策を!

住民の高齢化や建物の老朽化とともに、防犯や防災機能の低下など、住民の生活環境に影響を及ぼしていることを指摘。学生に県営住宅を貸し出す代わりに、自治会活動に参加するといった他自治体の取り組みを紹介しながら、入居条件の見直しや緩和を行い、入居率の向上に努めるべきであると提案しました。

これまで、外装や屋上防水の改修に加え、給湯器及び浴槽の設置や住戸内の床の段差解消など、改善工事を実施してきたところである。当該県営住宅には、単身世帯からの入居希望もあることから、今後、空き家の状況や住戸改善の進捗状況を踏まえ、提供可能な住戸の設定について検討していく。



## 千葉県循環器病 センターにてんかん 診療拠点機関の 早期指定を!

国では「てんかん地域診療連携体制整備事業」を進めており、現在、全国15県で「てんかん診療拠点病院」が整備されました。千葉県では未だに整備がされていないため、「てんかん診療拠点機関」の指定に向けての状況を質問しました。

県内の診療連携体制の構築を図るための経費を当初予算に計上したところであり、来年度の早期の指定に向けて現在準備を進めている。

さらに、「てんかん診療拠点機関」の指定条件を確認した後、現段階で条件を満たすのは、千葉県循環器病センターのみであるため、同センターの「てんかん診療拠点機関」への早期指定を要望しました。



## 観光資源として チバニ안의 活用を!

市原市田淵にある地磁気逆転地層を、地質学上の時代のうち、約77万4千年前から約12万9千年前の時代名称として「チバニアン」と呼ぶことが正式に決定。県としてもチバニアンを観光資源として活用するよう訴えるとともに、県道整備や交通安全対策をはじめ、教材化への働きかけを要望しました。

チバニアンと併せて、養老渓谷や温泉といった周辺の魅力を一体的にPRし、周遊観光や滞在につながるよう、観光プロモーションに取り組む。また、来月から開催される「いちほらアートミックス」は、この地域の魅力を知ってもらう絶好の機会であることから、こうしたイベント等の機会も捉えてPRに取り組んでいく。  
今後も、チバニアンをはじめ、先月選定された「千葉の地層10選」など、本県の魅力ある地域資源を観光面においても積極的に活用していく。

